要旨

運用の先にある DevOps の更なる可能性～XOps でカワルミライ～

1.はじめに

近年、DX 推進によりクラウド化の加速や業務の効率化が普及していく中で、アジャイルや DevOps のような時代に合わせた業務の考え方が定着し始めている。今後さらなる効率化が求められていくことを念頭に、未来の運用像を考える。

※DevOps：アプリの開発チームと運用チームが協力することにより、迅速かつ柔軟なサービス提供を行うための考え方や仕組み。

2.研究目的

「これからの DevOps を考える」というテーマで、既存の DevOps の概要や活用事例を基に、新しい「未来の手法」（以下、「XOps」という）を研究テーマとして、今後考えられる XOps やビジネスでのさらなる活用について研究する。

3.研究概要

- DevOps の実態調査

  研究を進めるにあたり、メンバー間で DevOps に対し共通認識を持つため、DevOps の概要や活用事例等を調査し、理解を深めた。

  開発手法である DevOps に対し、「運用」に特化した XOps とは何か、構想・スケジュール感について研究することにした。

- 運用業務で活用できる、新しい XOps の構想

  2 つの運用について迅速かつ柔軟に対応するためにはどういう XOps（手法）があるかを研究した。さらに、XOps 導入時の効果を検証した。

  - システム障害発生時の監視業務

    ＜現状＞

    アラートを検知し、内容によって運用担当者が対応方法を判断、対処している。

    ＜課題＞

    開発側への負担偏重による運用側のスキル不足

    ＜XOps の案＞

    運用側のスキル向上を目的とした仕組みを導入

©2022 UNIRITA Users' Group

要旨

- タスク管理の自動化

＜現状＞

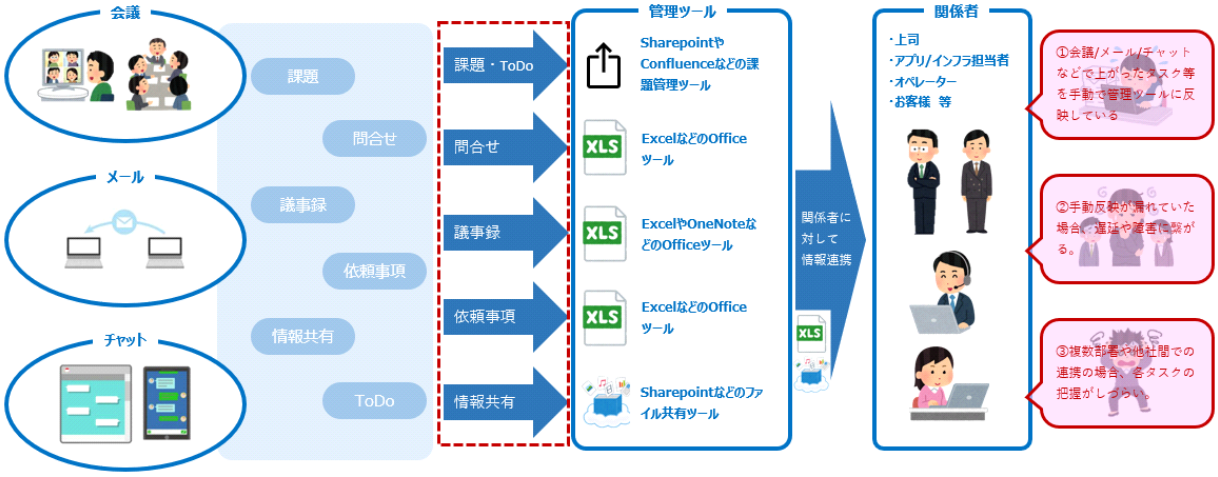
プロジェクトや定常業務、Web 会議、メール、チャットで浮き彫りになった課題、タスクの管理は、担当者自身で管理を行っている。

＜課題＞

・反映が漏れる可能性がある。

・複数のチームと連携する場合、誰にどんなタスクがありスケジュールがどうなっているかが把握しづらい。

＜XOps の案＞



会議議事録やメール、チャットの内容を自動で収集し、課題管理やタスク管理、進捗状況を自動で管理する。

4.まとめ

DevOps という考えがある程度浸透してきている昨今においても、既存のシステム構成や各部門との連携がうまく機能していない現状がある。

IT 化の加速によって考えられた DevOps という手法自体についても、改善・発展させる余地がある。

上記で説明した 2 つのテーマについて、あるべき姿を考察して今後必要となる技術に着目し、新たな XOps 手法によりこれからの運用業務の理想的な実態を提案する。

※　Excel、OneNote、Sharepoint は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※　Confluence はリックソフト株式会社の登録商標です。

※　本文中に記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。

©2022 UNIRITA Users' Group